

令和4年度宇都宮市の予算

「スーパースマートシティの実現」を目指して

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と、社会・経済活動の両立に最優先で取り組みながら、「スーパースマートシティ(※1)」の実現に向け、「NCC(ネットワーク型コンパクトシティ ※2)」をまちづくりの基盤に、「地域共生社会」「地域経済循環社会」「脱炭素社会」の3つの社会が融合し、「人」づくりの取り組みや「デジタル」技術の活用を原動力として、持続的に発展を続けられるまちづくりに取り組みます。

☎ 財政課 ☎ (632)2063

持続可能なまちづくりの基盤 「NCC」の形成

交通分野

- 公共交通ネットワークの構築(80億9,615万円)
 - ▼宇都宮駅東側のLRTの整備。
 - ▼公共交通利用促進運動MOVE NEXT UTSUNOMIYAの実施(totra配付事業、新モビリティ導入実証実験など)。
 - ▼地域内交通への交通ICカードシステムの導入。



▲交通ICカード「totra」

- 道路ネットワークの構築(28億3,012万円)

都市空間分野

- 都市拠点・地域拠点の形成(157億3,590万円)
 - ▼JR宇都宮駅東口交流拠点施設・交流広場などの整備の推進。



▲交流拠点施設・交流広場完成イメージ

- 拠点化の推進(10億5,230万円)
 - ▼木造住宅の部分耐震改修などへの助成。

安心分野

- 地域の安全対策の推進(8億8,001万円)
 - ▼浸水ハザードエリア内に立地する誘導施設の浸水対策への助成。

未来への責任を果たす 「脱炭素社会」の構築

環境分野

- SDGs未来都市の推進(1億1,162万円)
 - ▼カーボンニュートラルの実現に向けた市民のライフスタイル転換を促進する啓発活動の実施。
- 脱炭素化の促進(1億7,385万円)
 - ▼地域新電力会社「宇都宮ライトパワー」と連携した再生可能エネルギーの地産地消の推進。
 - ▼市有施設における再生可能エネルギー導入推進事業の実施。
- ごみの減量化・資源化の推進(5,460万円)
 - ▼プラスチック資源分別収集の効果検証の実施。

安全安心なまちづくり

新型コロナウイルス感染症対策(148億8,075万円)

- 感染拡大防止のための取り組み
 - ▼ワクチン接種体制の確保(3回目接種、小児接種)。
 - ▼PCR検査センターの運営。
- 市民生活を守るための取り組み
 - ▼生活困窮者への就労支援。
 - ▼路線バスの運行便数の確保。
- 事業活動継続のための支援
 - ▼中小企業への資金支援の実施。



総合的な治水・雨水対策(32億6,431万円)

- ▼河川の堆積土砂の除去。
- ▼公園における雨水貯留施設の整備。
- ▼田んぼダムの普及促進(田川・姿川流域)。



絆を深め、共に支え合う 「地域共生社会」の構築

健康分野

- からだところこの健康づくりの推進(47億5,700万円)
 - ▼子宮頸がん予防ワクチンの積極的勧奨の再開。
- 地域における健康づくりの充実(1億625万円)

福祉分野

- 地域で安心して暮らせる環境の充実(35億1,504万円)
 - ▼高齢者の入所・通所施設の防災・減災に資する設備などへの助成。
- 地域包括ケアシステムの深化・推進(7億4,691万円)
 - ▼医療・介護連携支援センターの運営など、地域療育支援体制の推進。



協働・共生分野

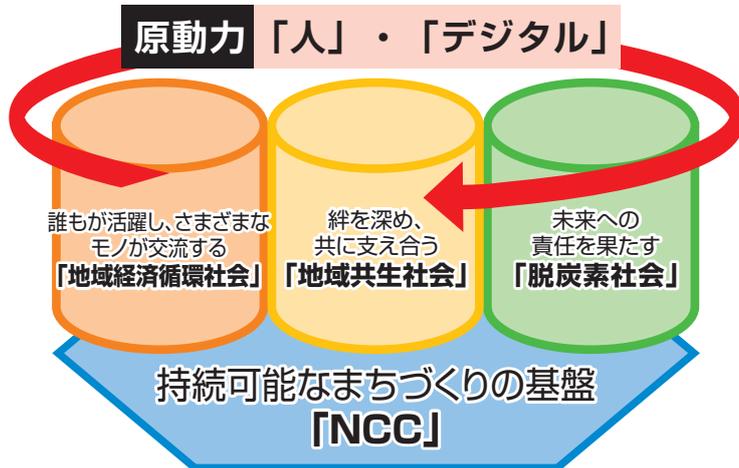
- 協働によるまちづくりの推進(1億5,145万円)
 - ▼魅力ある自治体づくりの取り組みへの支援。
- 女性の活躍推進(2,936万円)
 - ▼「つながりサポート女性支援事業」の実施。
- 多文化共生の推進(686万円)



※1 100年先も発展し続けるまちの姿「NCC(ネットワーク型コンパクトシティ)」を土台に、「地域共生社会」(社会)、「地域経済循環社会」(経済)、「脱炭素社会」(環境)の3つの社会が、「人」づくりの取り組みや「デジタル」技術の活用によって発展する「夢や希望がかなうまち」のこと。
 ※2 中心市街地やそれぞれの地域拠点、産業拠点、観光拠点到まちの機能を集約し、それらの拠点が利便性の高い公共交通などで連携した都市のこと。

令和4年度
一般会計当初予算
2,246億円

「スーパースマートシティ」の構成イメージ



誰もが活躍し、さまざまなモノが交流する「地域経済循環社会」の構築

魅力創造・交流分野

- 東京圏からの移住・定住などの促進(4億5,023万円)
- ▼メディアなどを活用した都市ブランド、移住・定住プロモーションの実施。
- 大谷地域の振興(6億3,978万円)
- ▼旧大谷公会堂などを活用した観光周遊拠点施設の整備。



▲観光周遊拠点施設のイメージ

産業分野

- 産業の集積と振興(2億696万円)
- ▼企業立地・定着促進拡大再投資に対する支援。
- 雇用の創出と安定(4,073万円)
- 中小企業振興の推進(163億4,171万円)
- ▼製造業などに対するICT利活用促進事業の実施。

■MICE誘致の推進(2,818万円)

- ▼MICE開催支援補助金による誘致。
- 魅力ある観光と交流の促進(4億9,137万円)
- ▼「FIBA 3 x 3 ワールドツアー つのみやオープナー」の開催。



■中心市街地の活性化(1億3,559万円)

■文化の創造・活用の推進(5億9,136万円)

農業分野

- 農業の生産力の向上(6億522万円)
- ▼新規就農者の経営開始資金助成の拡充。



まちづくりを支える「人」づくり

子育て分野

- 結婚・妊娠・出産の希望をかなえる支援(4億7,831万円)
- ▼母子健康手帳交付時の助産師・保健師による妊婦への全数面接の実施。
- 子育て環境の充実(28億1,258万円)
- ▼JR宇都宮駅東口に送迎保育ステーションを設置。
- 子育て支援の充実(57億9,155万円)
- ▼子育て世帯へ情報提供などを行う子育て支援アプリの導入。
- 子ども・若者の健全育成・自立支援の推進(2,831万円)
- ▼親と子どもの居場所づくり事業の本格実施。



教育分野

- 確かな学力を育む教育の推進(14億9,430万円)
- 教育環境の充実(26億2,381万円)
- スポーツ活動の推進(35億9,663万円)
- ▼いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催。

「デジタル」を積極的に活用したまちづくり

■地域社会のデジタル化の推進(1億4,165万円)

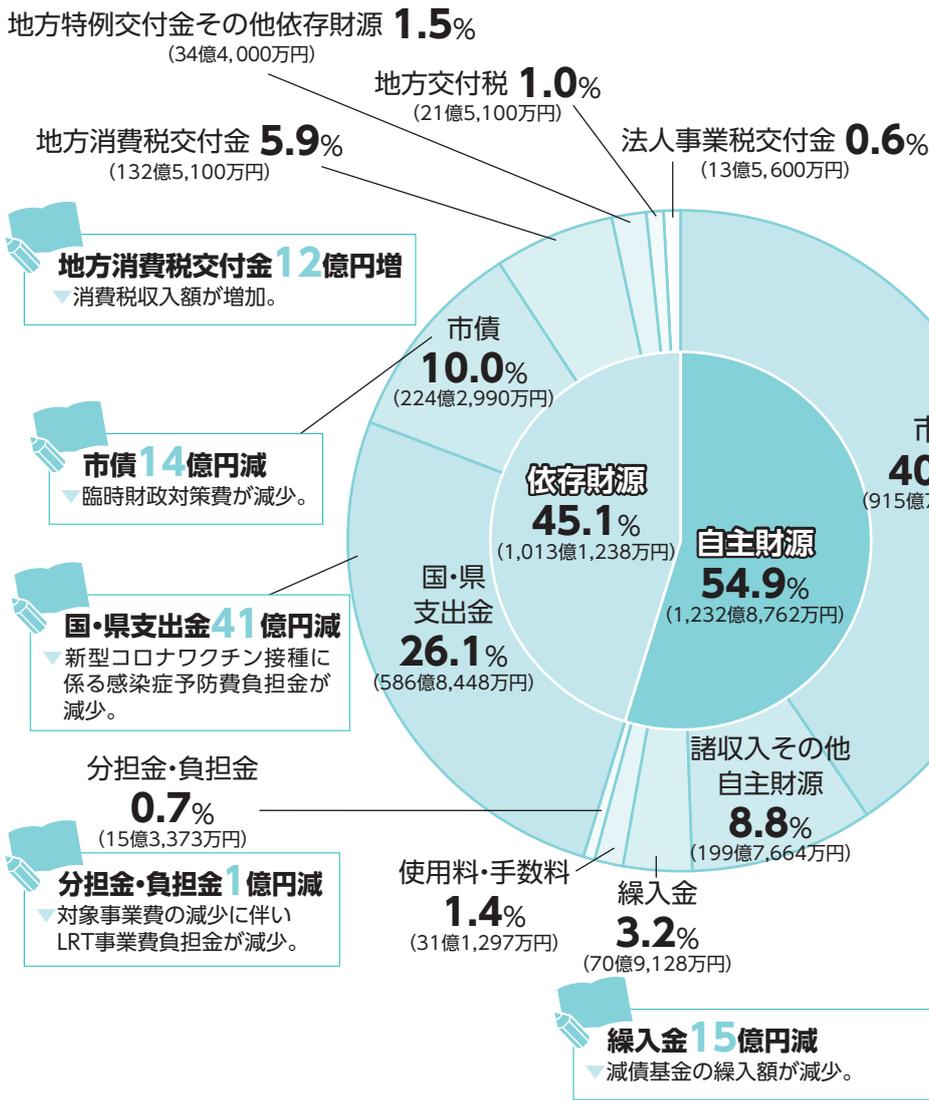
- ▼デジタルコンテンツなどを活用した「スーパースマートシティ」の体験機会の創出。
- 市民サービスの提供におけるデジタル化(12億3,411万円)
- ▼窓口における手数料のキャッシュレス決済の拡充。
- ▼地区市民センターなどにおける窓口の待ち状況の配信。
- ▼旅券申請手続きへの電子申請の導入。



- ▼市有施設におけるWi-Fiなど通信環境の整備。
- 行政の業務効率化のためのデジタル化(7,361万円)
- ▼学校と保護者のデジタル連絡ツールの導入。



歳入



地方消費税交付金12億円増
▼消費税収入額が増加。

市債14億円減
▼臨時財政対策費が減少。

国・県支出金41億円減
▼新型コロナウイルスワクチン接種に係る感染症予防費負担金が減少。

分担金・負担金1億円減
▼対象事業費の減少に伴いLRT事業費負担金が減少。

繰入金15億円減
▼減債基金の繰入額が減少。

令和4年度一般会計当初予算

2,246億円
対前年度予算比
45億円(2.0%)減

市税68億円増
▼給与所得や企業収益などにより、個人・法人市民税が増加。
▼新型コロナウイルス感染症に係る緊急経済対策による、固定資産税の軽減・免除が終了したことによる増加。

用語の説明

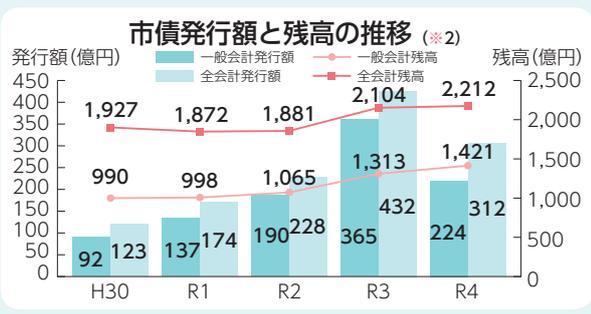
自主財源
市が自主的に収入できるお金

依存財源
国や県の決定や割り当てに基づいて交付されるお金

市債残高	一般会計	1,421億円 (108億円増)
	全会計	2,212億円 (108億円減)

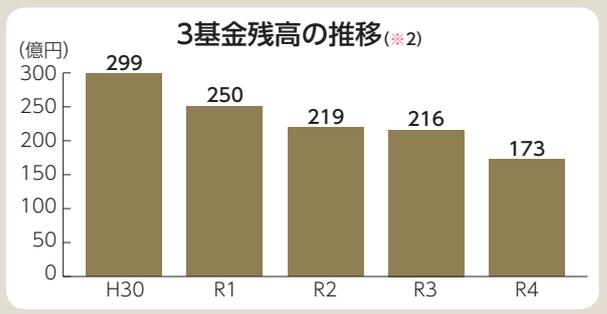
市債とは、道路・公園・学校など、公共施設の整備費用を長期的に借り入れるものです。

整備時に多額の費用が必要となることや、次世代の人たちも利用することから、年度間の財政負担を平準化し、将来の市民の皆さんにも公平に費用を負担していただくためのものです。今後も計画的に活用し、健全な財政運営に努めます。



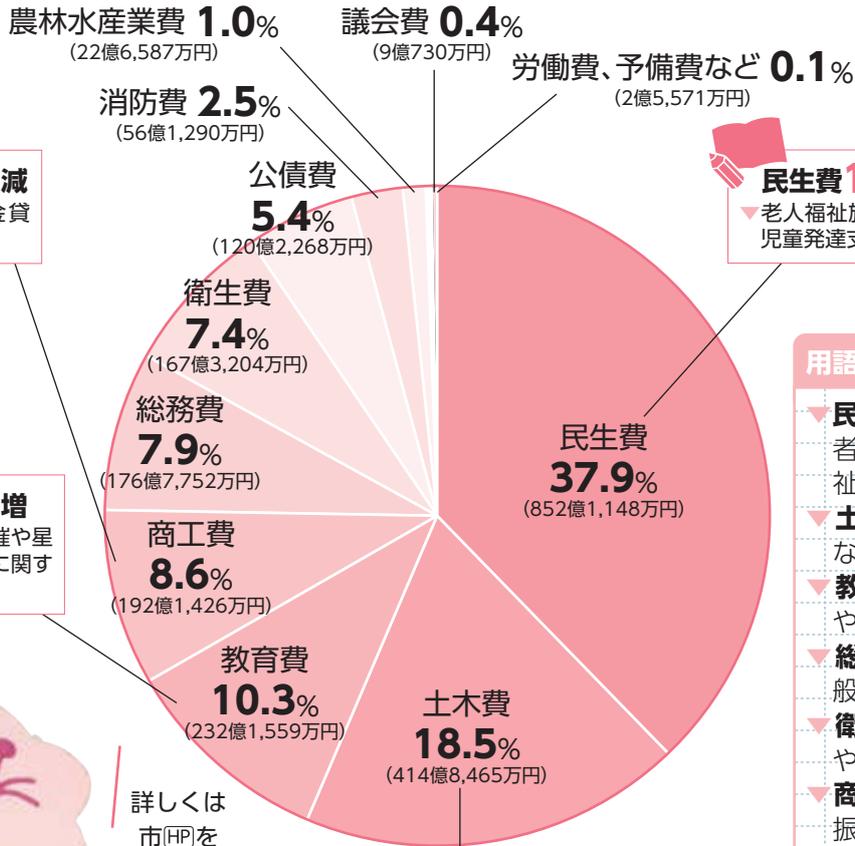
基金残高 (※1)	172億円 (取崩額 46億円)
-----------	------------------

基金とは、決まった目的のために積み立てている資金で、財政調整基金・減債基金・公共施設等整備基金などがあります。今年度は、JR宇都宮駅東口交流拠点施設の整備や、公共建築物長寿命化事業などの財源として公共施設等整備基金を31億円活用する他、本市の目指すまちづくりに向けて、財政調整基金を15億円など、合計46億円を活用しています。今後とも社会経済状況の変化などに対応できる残高を確保していきます。



◎この特集の金額表示 増減額の表記は前年度の予算額と比較したものです。また、表示単位未満を四捨五入しているため、合計金額と合わない場合があります。
※1 財政調整のための3基金(財政調整基金・減債基金・公共施設等整備基金)の合計。 ※2 R2までは決算額、R3は決算見込額です。

歳出 (目的別)



商工費27億円減
 ▼中小企業事業資金貸付金が減少。

教育費26億円増
 ▼国民体育大会の開催や星が丘中学校の改修に関する費用が増加。

民生費1億円増
 ▼老人福祉施設運営等助成費や児童発達支援費が増加。

土木費14億円減
 ▼LRTの整備に関する費用が減少。

- 用語の説明**
- ▼ **民生費** 子どもや高齢者、障がい者などの福祉のためのお金
 - ▼ **土木費** 道路や公園などを整備するお金
 - ▼ **教育費** 学校の運営や社会教育などのお金
 - ▼ **総務費** 市役所の一般的な事務などのお金
 - ▼ **衛生費** 病気の予防やごみ処理などのお金
 - ▼ **商工費** 商業、工業の振興や観光イベントなどのお金
 - ▼ **公債費** 借りたお金の返済のためのお金
 - ▼ **農林水産業費** 農業、林業、畜産業などの振興のためのお金



歳出 (性質別で見た場合)

義務的経費

1,032億7,850万円
(8億円減)

扶助費	26.8%
人件費	13.8%
公債費	5.4%

▼生活保護費や児童手当費の減少に伴い、扶助費が減少。

投資的経費

393億8,402万円
(1億円増)

普通建設事業費 17.5%

▼JR宇都宮駅東口整備費や老人福祉施設運営等助成費が増加。

その他の経費

819億3,748万円
(38億円減)

物件費	13.6%
補助費等	8.1%
貸付金	7.2%
繰出金	5.6%
積立金・出資金など	2.0%

▼新型コロナワクチン接種に係る予防接種の減少に伴い、物件費が減少。

▼中小企業事業資金貸付金の減額により、貸付金が減少。

特別会計 1,157億円 (2億円減)
 企業会計 503億円 (43億円増)

特別会計の特色

- ▼高齢化の進行に伴い、介護保険特別会計が増加。
- ▼国際自転車トラック競技支援競輪の開催により、競輪特別会計が増加。

特別会計	当初予算額	特別会計	当初予算額
国民健康保険	477億7,400万円	駐車場	1億4,807万円
介護保険	361億4,024万円	鶴田第2	10億9,530万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	2億3,959万円	宇大東南部第1	4億630万円
後期高齢者医療	66億4,549万円	宇大東南部第2	10億4,573万円
競輪	214億1,672万円	岡本駅西	6億1,205万円
		育英事業	2億1,651万円

企業会計の特色

- ▼上下水道施設の耐震化や老朽化対策など、建設改良費が増加。

企業会計	当初予算額
水道事業	201億6,510万円
下水道事業	273億7,252万円
中央卸売市場事業	28億537万円